広報こすど

発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人 矢部藤三郎

現在の政治に成人として望む

一月十五日「成人の日」に、当町では約一八〇名の若人が、祝されながら大人の仲間入りをした。式は町長の祝いの言葉で始められ、祝辞、小学生の器楽演奏等があり、つづいて、成人者代表、先輩、議会代表等による意見発表があり最後に日報社本間先生の講演で式を終わった。

税金の適切な運用を

須藤幸子

——成人の日を迎えて、今の政治に何を望むかという問題について、考えていることを少し話してみたいと思います。

政治といつてもいろいろあつて、直接私達に影響しないものもあります。ですが成人となり大人の仲間入りをする、私達が知らないからと、すませておられない問題がたくさんあります。だからこれからもいろ〳〵話を開いたり、本でしらべたりして、主権を持つに価する日本国民になろうと決心しています。

そこでもう少し考えてもらいたいことは、まだ記憶も新しい国会のらんとうさわぎのことです。みんなから選ばれた国民の代表者たる人達があの状態。選挙の時あのような立派な公約をかゝげていながらこれでは何のためにかゝげたのかわからなくなってしまいます。私達の不安もはなはだしいというもの。もう少し私達に希望を持たせてもらいたいものです。

次に私達に最も身近なものに目を向けてみたいと思います。

一番痛切に思うのは道路のこと。道巾がせまくその上道が凸凹していたり、バスのすれちがいに時間がかかり私達は不快ですが、損をしている側だってあるのです。その道を良くするにしても、計画性を持たずゆきあたりばったりにやっているような気がしてなりません。せっかくやっているのに途中でやめてしまったりです。このようなことの例は、小須戸橋のことでしょう。いくら予算がないからといっても、どうにもならないのでしょうか。

駅のない本町ではバスが唯一の交通機関です。これが橋のため、発車回数が少くなっています。一日も早く完成してもらいたいもの。もっと計画的にやればもうずっと前に完成したのではないでしょうか。

私達は税金をもっと計画的に運用してもらいたいものです。そうでなければ何のために課税されるのかわからなくなってしまいます。私達もしっかりとしていろ〳〵の面で研究をして、民主国家の成人としてゆこうではありませんか——。

いつもおくれる いやな人

新生活入選標語

国民の手本となる国会運営を

保科雪

私はまだ政治についてこれといった、はっきりとした考えはもっておりません。昨日、今日選挙権をもったとしても、まだまだ未熟です。ですから選挙の時も、どんな人を選ぶかと、いろいろ考えたつもりでしたが、いざその時になると、とまどってしまいます。何党の誰というよりも、誰がどんな公約を述べているかということを、考えるだけでやっとでした。自分がこれと決めて一票を投じた人が、少しでも多く、公約どおり活動していただきたいと思います。たった一回あった選挙で、あまり自信はないのですが——。

今の政治について最近テレビやラジオ新聞等の政治面に関心を持つようになった私です。でもそう思って注意して見ておりますと、いろいろなことが少しづつわかってきました。でもなんといっても私は、国会開会中に注目してみました。

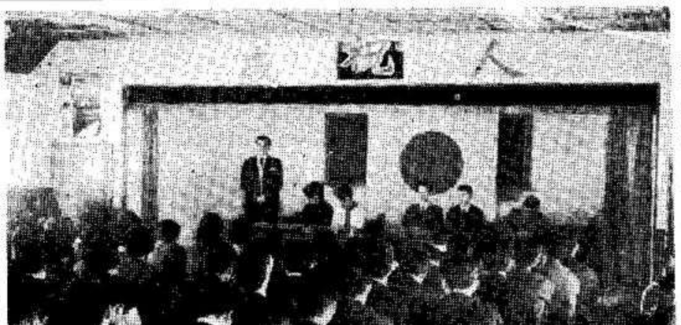
あかるい国づくり、楽しい社会生活をモットーに、おこなわれている政治活動が、あまりきたいできないように思われます。どうしてなのだろうか——。たとえば質疑応答の時など、どうしてあのように野次をとばさねばならないのだろうか。そんな中で、何を質問しどのように答えるのか聞いているのでしょうか、あげくのはては議長を監禁状態にしたり、わざと会議をのばしたり、これが正しい選挙の中で選ばれた人達のやることなのでしょうか。

答える方もその方面の責任ある人が応じるのですから、あまりの失言には考えさせられます。

あまりにもさわがしい国会だと思います。もっと落ちついた空気の中で、正しい国会運営と政治を進めてもらいたいと思います。

政治のことについてくわしいことを知らない私が、常日頃思っていることは次のことです。

国会の正常化問題は一日も早く解決して、いただきたいと思います。私達はこれから大人達の仲間入りをします。国会だけを例にとりましたが、これらの問題は、実は私達の身近かにも数多くあるのではないでしょうか。政治面はともかく、聞き流すことが多かった、今までの考え方はなおさなければならぬと思います。大人の方々もこのように少しづつ考え、少しづつでも成長して行く私達を失望させないよう、争いのない、平和な政治を行なつていただきたいと思います。



現在の政治に何を望むか—発表より—

広い視野で正しい政治を

比企辰雄

私達は今から一般社会から、青年として認められたばかりです。選挙権を今もらったばかりの私達に、「政治」と題されてもとまどうばかりです。なにしろ政治については無関心でした。けれど今日からは、無関心という言葉が通用しなくなったのです。

今から心新たに、今日一日をついやして、政治について考えてみても、無駄なことではないと思います。

民主主義、議会主義の政治形態である民主憲法下においては、主権者は天皇でもなければ、池田総理大臣でもありません。いうまでもなく日本国民の私達です。その主権者に今日から仲間入りをしたわけです。

国の歩みを間違った方向に行かないように、私達で考えなければなりません。政治をあやつるのは首相や議員ではありません。主権者たる私達でなければなりません。

残念ながら今日、日本の政治を動かしているのは一部の政治的実力者や各種団体であり、主権者たる国民の影響力は、ほんのわずかなもので比較にならないと思われます。現在の憲法の精神に反することではないでしょうか。

一例として選挙に際して、議員等を選ぶ場合、予算獲得のうまい議員を良い人と思いがちです。なるほど予算獲得がうまければ、その地域は一時的には大きな利益となるでしょう。しかし政治は予算がすべてではない。まして計画性のない金をいくら多く獲得しても、一部地域だけの利益であって国民全体としてみれば、その地域の利益をはるかに上廻る損失ではないかと思われます。

計画性のない予算は、ゴミダメに捨てるような誠にまずい使い方ではないでしょうか。

現在日本の悪道路は、もっともそれをみせるよい例ではないでしょうか。これからでもおそくはない、国家百年の計画を立てて、計画性をもってすれば、一気に、欧米等先進国並みにおいつけるものと信じます。

ようするに私がここで言いたいことは、近視眼的な考え方で選ぶのではなく、もっと高い視野に立って選挙にのぞまなければならないと思います。

論壇

趣味にあった宴会を

壺屋徳一

ことしこそ、平穏無事で、ますます幸福な年にしたいと、だれも念願しているのだが、一九六三年もなんだかんだといっているうちに早くも一カ月は過ぎようとしている。

ほんとうに人間の社会というものは、なかなか思うようにならない。思うようにならないのは人間の社会だけではもちろんない。大自然となるとなおさら人間の思うようにはならないけれども、こんなことが自分の思うようにならないものだろうか。

ということは、年の暮れから新年にかけて、各所で忘年会、新年会の催しで、宴会シーズンもひときわにぎやかに、大かたは終わったようである。それが必ずしも楽しい有意義な宴会であったであろうか。

それが例年のとおり「ツキアイ」と称して酔いどれ絵巻をちまたに展開したのはよいとしても、一年をしめくくる忘年会も、新しい年を祝う、新年会も楽しく愉快に実行できるなら大いに結構であろう。

しかし人間は千差万別で大いに騒ぐことの好きな人もあれば、静かに一年をかえりみて、しめくくりをしたい人もあり、また一年の計をたてたい人もある。酒の好きな人もあれば甘いものが好きな人もあるであろう。

それにもかかわらずただ単に「ツキアイ」ということだけで不本意ながら酒席に出され、その上日ごろのうっぷんを酒の力を借りて爆発させてみたり、席にいない同僚の悪口をいうようなことがあったのでは、愉快なはずの宴会が不愉快になり、これではなんのための忘年会、新年会かわからなくなってしまう。

要は汁粉で忘年会、新年会を行なうこともいいし、歌や踊りの好きな人、また文学の好きな人が集まって互に論じ合うこともいいが、不本意な「ツキアイ」の名のもとに行なわれる宴会には参加せず、また宴会には他人を傷つけないようすべての人たちが努めなければならないと思う。

「好むと好まざるとにかかわらず」という言葉は遠い軍国主義時代のことである。

忘年会や、新年会またこれからのいろいろの宴会には他人の顔色などさぐらず、「ツキアイ」などには〝参加しない〟という意志をはっきり示し、自分の趣味に合った最良の集まりにしてみんなが、ほんとうに心の底から明るい表情で喜ぶ楽しいつどいの場をつくらなければならないと思う。

町民のみなさん
毎日の除雪作業
御苦労様です

うでこき保育園の竣工を祝して

皆さんあけましておめでとうございます。

昭和三十七年も暮れ、「昭和三十八年」の卯の年を迎え、待ちに待った保育園も町当局始め議会町民皆さんの御支援によって増改築も成り、新年早々広々とした園舎に嬉々として通園、保育教育を受けておられる園児の皆さんを目のあたりに見るにつけ、自分ごとのように喜び、心はずませ、「ア、これでよかった」と一人満足感にひたっております。この保育園も竣工を契機に保育教育均等の意味から呼び名も第三保育園と称して頂くべく関係当局へ申請し、皆さんのお力添えの整備費をもって遊具等の内容を充実し園児の満足すべきであることを願うのみであります。ただ一つ残念なことは、せっかく立派な園舎ができたものゝ席を暖める間もなく小学校へ巣立って行かれる園児の皆さんには早く打つ手は打って完備した保育園を造って上げなかったことで、これは眠っておった私達がわるかったと心の中で合掌「勘弁して下さいね。」とわびる心切なるものがあります。どうか町民の皆さん今後まだ残された仕事もあり、うでこき保育園の保育目標であります「園児の幸福」のために今後とも一層の御支援を賜わりたく、貴重な広報紙面をおかりして、特に保育園に関係のあられる皆さんに御願いかたがた御祝辞を申し上げる次第でございます。

うでこき保育園整備委員　金沢松太郎

なぎさ

「兎」に関することわざ・・・・

—卯年に因んで—

○株（くいぜ）を守りて兎を待つ「株を守る」〔柳の下にいつもどじょうはおらぬ〕

一度成功した経験、または言いふるされたならわしを、そのまま守って融通をきかせないことのたとえ。

昔、中国の宋に一人の農夫がいた。畑で仕事をしていると、たま〳〵一匹の兎がかけてきて、畑の中の株にぶつかって死んだ。農夫はそれに味をしめ、以後耕作をやめて毎日その株を見守り、また兎のかけ出るのを待っていたという。

○狡兎（こうと）死して走狗（そうく）烹（に）らる。

悪賢いうさぎが死ねば、もう猟犬は不用だとして煮て食われる。敵国が滅びたのちは功臣も不用だとして罰せられることにたとえている。

「飛鳥尽きて良弓蔵せられ、狡兎死して走狗烹らる」と同じ。

史記「狡兎死良狗烹、高鳥尽良弓蔵、敵国破謀臣亡」

○鹿を逐（お）う者は兎を顧ず

大利を望む者は小利を顧みないたとえ。

准南子「逐鹿者不顧ㇾ兎、決二千金之貨一者、不ㇾ争二銖両（しゆうりよう）之価一。」

「銖両」は、ごく少しの目方。

○二兎を追う者は一兎をも得ず。〔虻（あぶ）蜂（はち）とらず〕

二匹のうさぎを同時に捕えようと追いかける者は、そのうちの一匹すらとることができないように、一度に多くの利を得ようとする欲を出すと、かえって全然利益が得られないことのたとえ。

○始めは処女の如く、後は脱兎（だっと）の如し。

戦争において、始めは処女のように静かにしていて敵を油断させ、のちには逃げ出すうさぎのように急速に攻めたて、相手を屈服させることをいう。

転じて、何事でも、はじめは静かにしているが、終りは急速にやることをいう。

孫子「始めは処女の如く、敵人戸を開く、後は脱兎の如く、敵拒（こば）むに及ばず。」

自動車運転講習会案内

自動車の激増により運転者を育成するために次の通り計画しております。

期間　三カ月　毎週二回　夜七時二十分より
会場　小須戸町公民館
内容　交通法規、自動車構造を主体として
免許　普通自動車を主体にする
申込　二月末日まで公民館に　人員三十名
開催日　三月中旬より（予定）

雪よ降らないで!!
明治以来のもの

古いことわざに「災害は、忘れたころに——」というが、今回の雪はまだ忘れようとしても、忘れない時に来てしまっている。一昨年のものより多い雪であり、こんなに毎年あるようではと、関係方面での、根本的な対策が望まれている。

一昨年の豪雪と大風等で自然の破壊の大きさを心にしみじみと、感じさせられたばかりである。そのことがまだ夢のように思いだされる今年、また一昨年につぐ豪雪である。

この雪は鉄道開通以来のもので、高令の人達でも記憶にはないという。この雪は、本県だけではなく、福井、石川、富山および新潟と北陸三県等に大雪を降らして、本県へ。特に本県では中越を中心とした長岡、柏崎等特に豪雪という言葉もあてはまらないくらいの三条市、見附、陸の小島となった栃尾市など各地の破壊は厖大なものとなっている。

当小須戸町においても雪積量、数メートルにおよぶものではないか、と思われているが、本町通りの屋根の雪下しも数回におよび、当町の特色ともいわれる「ガンギ」も雪の下となり、トンネルを思わせる状態である。本町通りでこの状態だ小路などは、屋根より高く雪がつみ上げられて、道路から屋根におちるということにもなりかねないであろう。

現在各町内より少しづつでも自動車による雪すてを進めているが、屋根より高い雪ではどうも一日二日ではおさまらない。すくなくても一カ月はかかりそうだ。

現在までに進められている道路の雪割りは、出雲町より横町まで、新町より一番町まで進められている。この雪ぬけには各町内はもとより、運転者協会、交通安全協会等各団体等の御協力も大きく見のがせないものであろう。

今後の道路確保のために、まず本町内の主要道を中心に雪をぬけ、それと共に小路の雪をもぬけて行くという。

現在持っている計画は、横町通りを全面的に自動車が通られるようにし、また、一番町からウデコキまで、県立病院から四番町に下る道、役場前の通り、等にぬけて行くというもの。

雪ぬけを進めると共に消火栓など、万一の火災を考えた消火活動のできるように、仕事を進めてもらいたいし、今後とも一層各地域や、職場等で破壊のでないようにまた道路等の雪ぬけに御協力下さるよう関係者はお願いをするとともに、望んでいる。

雪や川に注意
舟が川中で凍る

豪雪となったさる一月二十二日内山忠四郎さんら二名で、庄瀬地内より河舟で小須戸に帰る時に雪と夜のため、河の中で坐礁したため二日間も河の中で、陸との連絡がとれずにいた。このため自宅や親族、町当局の捜査により庄瀬地内にいることを発見、さっそくでむいたが、雪と河の中のため集まった百名近い人だが、どうにもできずついには、県警の機動隊の出動や海上保安庁のヘリコプターの出動により、食糧のない舟より救助された。

このことは冬期における交通の良い教訓となることであろうが、日常忘れさられていることで、人間の力も大切であるが機械、機動力というものの必要性を、この事故と今回の豪雪によって身にしみて感じさせられた。

また今回のように沢山な雪をどのようにして、少しでも早くなくすることとできるか、雪国の私達たちが中心となって、大きな関係者等より研究を進めてもらいたいもの。

救出された二人の話

このたび私等二人は一月二十二日夕刻信濃川筋地内航行中、風雪のため視野がきかず突然の事故を起し、地元を始め近郷市町村のみなさまに、大変御心配をおかけし、二十四日豪雪風雪の中、昼夜をとわず近郷の市町村当局、県関係、自治団体の御好意により午后二時頃無事救出されました。私ども始め親族および家族一同感激しております早速皆様にお礼申上げるところですが、多忙にまぎれており、失礼をしたやもしれませんが、本当に今回のことにつきましてはみなさんありがとうございました。

内山忠四郎
内山英二

小須戸町みどり会
総会おわる

十二月十六日午后一時より小須戸町みどり会では中蒲原郡連合みどり会長木村イクヨ氏、中蒲原郡福祉事務所長保科要吉氏の両氏をおむかえし、新会長川村マツ氏の就任のあいさつにはじまり昭和三十七年度の総会を開催した。

木村イクヨ氏の会員一同が手を取り合って力強く生きてゆこうというはげましのお言葉と、保科福祉事務所長の福祉法のくわしい説明などがあり午后四時盛大の中に閉会した。

ありがとうございました
今年の共同募金

昭和三十七年度県の共同募金会の小須戸町募金目標は左記の通りであります。

郡目標額
一一、二四〇、〇〇〇円

小須戸町目標額
一九九、八〇〇円

小須戸町募金総額
二〇五、五八九円

このようでありますが町民各位の御協力により各募金ともに、目標に達しました。

紙面を借りまして感謝申上げます。

新潟県共同募金委員会
小須戸分会

つめたい話
"科学歳時記"

昔、アイスクリン屋というのがいて、お祭りなどに、砂糖水をかたまらせて、アイスクリームまがいのものを売っていたものである。アイスクリン屋のおやじは、時々、器のまわりに雪をおしこみ、塩をふりこんではつきまぜていた。この雪と塩が、砂糖水を零度以下にして固まらせた秘密で、うまくまぜると零下二十一度まで下がることが知られている。

いかにして低温を得るか、ということは科学者にとって興味ある問題で、この二つ以上のものをまぜあわせてつくる寒剤もエーテルと固体炭酸ガス（ドライアイス）をつかえば、零下七十八度にもなる。一方、いろんな理論的な研究の結果、低温には、これ以下の低い温度はない、という終点があり、それは零下二百七十三・一六度である、ということが、はっきりしてきた、口をすぼめて、手のひらに息をふきかけると、冷たく感ずる。

これは、おしちぢめられた気体が急にひろがると温度が下がる性質によるもので、これをつかって空気を圧縮しては、ふき出させ、また圧縮してはふき出させると、だんだん冷たくなって、遂に、液体になってしまう。

これが液体空気で、この温度は、約零下一九〇度、窒素を液化すると、約零下二百度、となる。

これは、水がある条件のもとでは、高温で気体（水蒸気）であり、温度を下げると液体（水）固体（氷）とかわってくるのと同じわけである。つづいて液化に成功した液体ネオンが零下二百四十六度、液体水素が零下二百五十三度と、次第に終点に近づいていきたが、ヘリウムだけは、何としても液化しない、ヘリウムは、水素についで軽い気体でしかも燃えないので爆発する危険がないから、よく気球につめられたものであるが、一九〇八年オランダのカメルリン、オンネスという人がはじめてヘリウムの液化に成功した。

その温度は何と、約零下二百六十九度、あと四・二二度で終点という低温であった。これ以下に下げるには、大変な努力と研究を必要とし、いろんな方法が考案されて、現在はあと、〇・〇〇一度で終点、というところまできている。これだけなら、ただ低温をつくるのに成功したというだけなのだが、このオンネスが、ある日、液体ヘリウムで水銀（あの寒暖計に入っているあれである）を冷却して電気の抵抗をはかっていたら約零下二百六十八度で全く抵抗がなくなってしまうことを発見した。つまり電気を素通しにするのである。これは大変な発見で、彼はこの発見によりノーベル賞を受けている。

このほか、この位の低温になると思いもおよばぬことがおきてくる。磁石の力を完全にはねかえしたり、容器に入れておいた液体ヘリウムがいつのまにかみんな外へ流れ出るなど、この世の常識も全く通用しなくなっている。

税金のこよみ

国税
所得税
◇確定申告と納税
◇損失申告書の提出
三月十五日まで
贈与税
◇申告と納税
二月二十八日まで
県税
◇事業税の申告
三月二十日まで
町税
◇県民税申告
三月二十日まで
◇保険税第六期納入
二月二十八日まで
◇固定資産台帳の従覧
三月二十日まで

小須戸町PTA
連絡協議会発足す

今回町内三カ校のPTAでは、本町内PTAの健全な発展と相互の連絡協調を図るとともに児童生徒の福祉をまもり、教育の振興に寄与するために連絡協議会を作りました。

〇役員は左記の通り
・会長　田中達郎
・副会長　栄森一治
　近藤義雄
　三浦茂
・幹事　橋本国衛
　古田英夫

囲碁将棋
大会の入賞者

一月二十日公民館で開催した町民囲碁将棋大会は、大雪もものともせずに集まった大天狗、小天狗の熱戦で次の人たちが入賞した。

将棋の部
一位　中村恭平
二〃　高野松一
三〃　柏木桂二
四〃　久保昭志知
五〃　風間満治

囲碁の部
一位　武藤一夫
二〃　小川孝雄
三〃　長井孝夫
四〃　小柳達郎
五〃　青木堅司

小須戸風土記
明治大正 越後侠客物語
その六
柏大治

翌日から喜三次は着物も妙に着たり、いままで吸ったことのない煙草入れを奇妙な具合に腰に差し、およそ商人に不似合なようすで商売に出掛けるようになった。だが喜三次は思慮のある人間だから、短兵急に危い橋を渡ろうとはしない。ちょっとお金がもうかるようなことがあれば、小銭を持って素人衆の小博奕に顔を出し、丁半と勝負をすることがあるくらいで別にこれといって無茶なことはしない。擬刀令がでて腕にものをいわせることがない。といってもいざここ一番となれば腕がものをいう。

明治時代といってもまだ浅く世の中は殺伐の気風はまだとれていない。

本格に剣道の修練を積んだ人もあるし、ことに「やくざ渡世」の社会には用心棒といって、腕もあり、血を好む命知らずの連中がいないとも限らない。まずこうした者を相手とするには、度胸一つで争っても勝ち目がない。充分自力を養ってからと喜三次は思っているのでおそ蒔きながら、なんとか剣道の一手位いは、修得しておきたいと熱心に考えたから、檞の木で大きな木刀を造った。

商売から帰って来るとひそかに剣道修練の道場として、目につけたのが主人弥七の裏庭。

お盆、お祭りが過ぎ庭一面に青々とした葉の重り合っている中に、手頃な柿の木が二、三本鈴なりに実を結んでいる。喜三次はこれに目をつけ、良き相手なりと柿の木を相手に「エイーヤァーポン」と剣道の稽古を始めた。なにしろ力まかせになぐりつけられ、柿の木もたまったものではない枝は折れ、葉は落ちる。稽古は家の者に知られないよう朝夕続けている。

弥七どんはそんなこととは知らない、今年は柿のなり年だというが、家の柿もさだめし沢山ついたことだろうと、裏庭に出てみて驚いた。いつのまにか柿の木の枝は折れ、丸坊主になって杭木のように三本竝んでいるから、さすがの弥七どんもかんかんな立腹で「一体全体この始末は誰れの仕業だ」とだんだん調べてみると、喜三次だということが解った。

「商人に剣道は必要ないそれよりソロバンの玉を上手にはじくことを稽古しなさい」

とさんざん油をしぼられた。この時ばかりは喜三次もすっかり恐縮して大きい身体を小さくして、平身低頭の上、「今後絶対こんな馬鹿な真似はいたしません、なにとだごかんべんを」とその場はおさまった。

剣道禁止の形になって二、三日喜三次はすっかりしょげていたが、心の中では剣道を断念するどころか、益々執着心が出て寝ても起きても、木刀を持たないが工夫を凝らしている。

当時小須戸も一般に剣道熱があって、横町では会津屋という家を道場に何流の流れを汲むか知らないが、郷真一刀流という看板を掲げ朝晩若衆が集って「ポンポン」と剣道の稽古をしている。

ことに近頃、甲府の野洲八幡十郎先生について三年間、真庭念流に習った竹石富七（後に巻町の親分になった人）田巻兵市の両人が、会津屋道場の小天狗といわれ近在で剣道にかけては竝ぶ者がなかろうと、偉い評判だから近在からも若衆が剣道の稽古に集まって盛んなものだった。

喜三次もこの会津屋の前を通るたびに、一層のこと入門をしょうかと思うこともあるが、主人の手前また剣道を始めたかと思われるのも嫌だし、他の人の知らないうちに剣道の意を修得したいと考えているので、日夜苦労していた。ところがこにちょうど良い師匠がみつかった。

新津在柄口木の住人で、結城清助という水戸浪人万延元年三月三日桜田門の雪を血で染めた、井伊掃部頭の事件にも関係があるということだが、素性はあまりはっきりしない。

この人は千葉周作から正式に教えを受けた、北進一刀流の達人、表て向きは一向剣道を心得ているという風なようすをみせないが、講釈好きのところから喜三次は、商売に行って知り合った。

「お前がそんなに熱心に剣道が習いたいなら、暇な時に来なさい……一手位いは教えてやってもよい……はじめから断っておくが、御覧の通り剣道具の面や小手はない。素面と木刀で少々荒っぽいがその覚悟ができたら来なさい。……」

と引き受けてくれたから喜三次は飛び上って「俺も近いうちに男になれるぞ」と叫んだ。

結城さんがその日より先生と変り、

「先生いくら荒っぽくとも喜三次は、不死身だから閉口しませんが、短期間で一番大切な処を教えてください。市休みには必ず来ますから——」

と剣道の教えを受けることになった。

次号へ

釣の研究
寒鮒釣り

寒鮒釣りのシーズンとなっておりますが、愛好者にはどこで大物、大漁をあげようかと希望を抱いておられる事と思います。毎年寒に入いると、テレビで鳥屋野潟および栗の木川周辺の寒鮒釣りが紹介されていますので多くの人々には、すでになじみの事と思います。大体寒鮒釣りは池、沼、潟等に限られますが例外として鳥屋野潟に接する栗の木川（水温の関係と思いますが）もあります。竿は二間半以上、みち糸、錘はできるだけ小さめに、針素は三～四厘、餌は赤虫を使用、なるべく静かに同一点に投ずるようにし、（魚信のあった場合）またある程度釣り上げたら場所、ポイントの移動をした方が良策と思います。釣り場としては、曽川の池、栗の木川（山二つ）、北山の池、（亀田）、北上の池（新津）瓢箪の池（大野）等があり、それぞれ仕掛地域により選ばれた方が得策と思います。栗の木川は二間ー二間半、北山の池は舟釣りで二間半、北上の池は三間、曽川及瓢箪の池は二間半以上の竿が望ましいと思います。

（KW）

初場所句会
小須戸町俳句同好会

三日はや出勤の隔くづしけり	水月
半白の髪整えて小正月	杏水
貼まぜの詩を読む雪夜の旅炬燵	煌水
大割で今年早りかがみもち	一陽
寒紅を濃ゆく言葉の少なけれ	山葵
吹雪中灯してバスの現わるゝ	虚秋
黄水仙医師にまかせて眼をつむる	芳人
雪くるか炭火が夜を彩れり	越楼
屋根の雪振りかへり見る務め人	香月
煮凝箸にのらずして色くづれ	紫川
宿題の子に教へつゝ妻夕なべ	竜朗
新聞紙たゝんで隙間風除けし	渓灯
早梅や大判焼の店はんじよう	流水